

平成22年度事後評価結果(平成23年2月)

【研究開発課題名】 静的及び動的解析の組み合わせによるWebアプリケーションのセキュリティ診断システムに関する研究開発

【委託機関名】 株式会社NST

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>インターネットの拡大に伴い爆発的に増えているWeb アプリケーションのセキュリティ向上に資するため、一般的に広く使われている擬似攻撃診断の有効性を活かしながら、同診断手法に対してソースコードの解析技術を相互補完的に付加する研究開発であり、当初の目標は十分達成されている。</p> <p>webアプリケーションに対して、静的解析であるソースコード診断と動的解析である擬似攻撃診断を組み合わせることにより、セキュリティ上の問題検知から問題の修正支援までを行うシステムを実現し、その効果を実証している。この結果、Webアプリケーションの脆弱性による問題の修正に要するコスト削減が期待できる。但し、問題検知手法に関しては、誤検知と検知失敗のトレードオフについての評価が不十分であり、今後の検討が必要とされる。</p> <p>主要な結果は学術雑誌(査読有)に4件、国際会議(査読有)に5件発表しており、学術的には確かな成果である。これらは、産学共同でまとめた論文であり、本研究開発を通じて研究者の育成効果もあったものと考えられる。実装開発に関しても短期間で、目標を達成しており、効率的な研究成果がでたと評価できる。特許は3件出願しているが、査定をパスしての知財化にまでは至っていない。しかし、今後、基本手法が特許化できれば、さらに知財としての効果も高まると期待できる。</p> <p>以上のように、波及効果が期待できるソフトウェア開発支援技術が達成されており、また特許、対外発表により研究開発成果は社会に還元されつつある。今後は、本研究開発で得られた知見を産業界に反映できるような標準化などに向けた取り組みが期待される。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>事業化シナリオの立案、具体的な製品の提供形態、対象顧客セグメント、製品の優位性や価格体系、販売戦略など、顧客や販売代理店候補などの意見、および、マーケットのニーズを考慮して着実な計画を作成している。</p> <p>本事業での製品展開では収支計画にある40件の販売数量の達成と、販売代理店の組織化が重要な要素になるが、ともに、具体的な顧客や販売代理店候補とコンタクトしており、販売数量については25件についてその見通しが立っている。</p> <p>製品の拡張を中心とする投資計画についても、ベンチャーキャピタルへのコンタクトなど具体的な活動にも着手しており、1年目の販売実績や今後の経済状況などの要素に左右される部分があるものの妥当な計画となっている。</p> <p>収支計画にある納付率についても、累積で10年後に116%と妥当な計画となっている。</p> <p>現在の事業計画は製品レンタルを対象としているが、将来的にはASPビジネスの展開や他社への技術使用をベースとする事業化など、新規事業も視野にいれており、事業の拡大も期待される。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。